

～鹿児島で世界を語ろう～

第25回 外国人による 日本語スピーチコンテスト



公益財団法人鹿児島県国際交流協会

鹿児島県在住の外国の方に、日本語で意見を発表する機会を提供することで、外国の方の日本語能力の向上を図るとともに、鹿児島の国際化を考える上で、国籍や文化の違いを越えた相互理解・国際交流を深め、多文化共生の社会づくりを目的として、「～鹿児島で世界を語ろう～ 第25回 外国人による日本語スピーチコンテスト」を実施しました。

今回は、10の国・地域から32名の県内在住の外国の方が予選に出場し、その中から、5ヶ国10名の皆様が本選でスピーチを行いました。発表スピーチの内容を御紹介いたします。

開会

主催者あいさつ 公益財団法人鹿児島県国際交流協会 理事長 津曲 貞利

スピーチ発表

審査結果集計

審査結果発表

表彰 最優秀賞・優秀賞・審査員特別賞・奨励賞

講評 鹿児島国際大学国際文化学部 教授 祖慶 壽子

閉会

審査員 (敬称略・順不同)

高 島 まり子 (鹿児島ユネスコ協会 常任理事)

祖 慶 壽 子 (鹿児島国際大学国際文化学部 教授)

勝 田 順 子 (志学館大学人間関係学部 准教授)

海江田 由 加 (南日本新聞社読者局読者センター センター長)

中 尾 成 昭 (鹿児島国際化推進協議会 会長)

福 壽 浩 (かごしま県民交流センター 館長)

寺 園 直 喜 (公益財団法人鹿児島県国際交流協会 専務理事)

【最優秀賞】



氏名 王 珊珊
(オウ サンサン)

国・地域 中国 

在日期間 1年1ヶ月

学 校 鹿児島大学

タイトル : おばさん

皆さん、こんにちは。もし、海外で急に知らない人に、「国へ帰りなさい」と言われたら、皆さんはどうされますか。

四年前の2016年、私は北京の北方工業大学で日本語を勉強し、留学生に選ばれて、東京八王子での一人暮らしを始めました。初めての海外での一人暮らしです。わくわくしますよね。そんな気持ちで、すぐに八百屋さんのバイトも見つかりました。バイトの初日に、エプロンを付けて、名札を付けて、レジの前に立ちました。ある初老の女性のお客さんが入ってきて、私の名札を見て、こう言いました。「あなたたち中国人はお金のために日本に来たのでしょうか。中国は戦争に負けたのでしょうか。あなたたちは日本にいる資格はありません。日本語分かります。もうさっさと中国に帰りなさいよ。」このお客さんがちょっと変な人だなと思って、ただニコニコしていました。すると、相手は「笑いごとではありません。もうこの店には二度と来ません。」と大きな声で言いながら店から出てしまいました。それ以来、同世代以外の日本人と話すのが、少し怖くなりました。

あっという間に十ヶ月が過ぎ、私は中国に帰りました。推薦入学で中国の吉林省の大学院に進学しました。吉林省は北京からの直線距離は約千キロです。鹿児島中央駅から東京駅の直線距離も約千キロ、それと大体同じぐらいの距離です。どうしてわざわざ大都市の北京からそんなに遠い所に行くのかって思うでしょう。それは、憧れの先生がいりゃったからです。私の指導教員の先生は学識のある方で、鹿児島に住んだ経験のある、優しい中国人のおばさんです。以前日本で経験したことがトラウマとなり、もう一度留学するつもりは全然ありませんでしたが、尊敬する先生が「鹿児島はいい所ですよ。留学に行ってください。」とおっしゃっていたので、鹿児島に来ました。

実は鹿児島に来てから、バイトを始めました。時給800円、人と話さない、ホテルの清掃員です。しかし、同僚は皆60才以上。昔の嫌な気持ちがよみがえりました。私の教育係は七十代のAさんです。小柄で鹿児島弁ばかり話します。私はお金のためと思って、働き始めました。

ある日、Aさんが「若い子にはお菓子がいるのでしょうか。おばちゃん一個、他は王ち

ゃんに。」とお菓子をくれました。後から、そのお菓子がお客さんが残したものだとして、びっくりしましたが、いつももらってるので、私もお土産を買うようになりました。「これは霧島のお土産です。」と言いながら、Aさんにあげたら、Aさんが「はい。ありがとう。これはニシムタのお土産です。」と言いながら、私にくれました。Aさんからお菓子をもらっているうちに、おばさんへの嫌悪感がだんだん薄れていったような気がしました。

またある日、一緒に弁当を食べている時に、Aさんが突然、小さな声でこう言いました。「王ちゃん、お父さん給料いくら。」私が正直に答えたら、今度は「お母さん給料いくら。」と聞かれました。お金の話は嫌いではありませんが、突然聞かれてびっくりしました。しかし同時に、何か自然に、Aさんとの距離が近くなったような気がして、嬉しかったのです。

Aさんのようなおばさんは、鹿児島にはたくさんいます。鹿児島のおばさんたちのお陰で、私は「日本が大好き」とはまだ言えないのですが、日本への印象が確かに少しずつ良くなって来ました。そういえば、私の留学生活は、おばさんで始まって、まだ終わっていないのですが、おばさんで終わるかもしれません。

そして、私もいつかおばさんになります。私がおばさんになったら、次の三つのことを遂行したいと思います。一つ、皆にお菓子を配ること。二つ、人の給料は聞かないこと。三つ、外国の文化を理解していなくても、外国政府のやり方に疑問を持っていても、外国人の子を差別しないで、普通に接すること。人を良い気分にするおばさんになれるように、頑張りたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

【優 秀 賞】



氏 名 JAVIER SEAN GARY GUEVARRA
(ハビエル ション ゲアリゲバラ)

国・地域 アメリカ 

在日期间 1年5ヶ月

勤務先 曾於市（外国語指導助手）

タイトル ： 「あ、ガイジンだ！」

想像してほしい。数日前に日本に来た君は、買い物をしに行ったスーパーの隅でその言葉を聞いた。平気な顔で別のところに移動するけれど、心では「ガイジン」という言葉が鳴り響く。

君は一人だ。知り合いはほとんどいないし、日本語もあまり分からない。心は孤独や不安がいっぱい、君の世界はとても暗くて狭い。

何か月か日本での生活を続けていくと、少しずつ友達ができ、新しい仲間たちが増えていく。町の小さなスナックに行けるようになったり、これまで食べられなかった和食が好きになったりして、いつの間にか町の一員になっていく。すると、君の世界はカラフルに輝き、心は幸福感でいっぱい。

だが、そんなある日、お店で食事をしていると、他のお客さんからこう声をかけられる。「お箸上手ですね。」笑顔で感謝を伝えはするが、鮮やかだった君の世界は一瞬で色を失い、初めて日本に来た時の自分に戻されてしまう。

こんな話は想像しにくいかもしれないが、僕たちガイジンにはよくあることだ。ほめ言葉なのに、何がいけないのかと、皆さんは混乱しているかもしれない。

正直に言うと、僕たちガイジンは、先程のような言葉をかけられたとき、人知れず「疎外感」を感じているのだ。

他にも、「日本語上手だね」とか「国はどこ」「いつ帰国するの」など…もしこれらの言葉をかけられたときに、毎回100円をもらえたとしたら、BMWの新車を買えるくらいは稼げることだろう。相手に「ありがとう」と伝えるけれど、「その言葉、日本人同士でも使うかな？」と思い、なんとも言えない寂しさからため息をつく。

一見、順調に交流が進んでいる中でも、疎外感は音もなく忍び寄って来る。

「やっぱり同じ仲間だと思われていないんだな…」「これじゃあまるで、子供扱いされているみたいだ…」そう感じながらも、なかなか口には出せない。なぜなら、その言葉に悪気がないのは分かっているから。僕たちだって、楽しい場の雰囲気壊したくないから。

とはいえ、日本人に話しかけられたり、褒められたりすることは心の底から嬉しい。

日本に住むために、ガイジンも一人一人方法は違うけれど、色んな勉強をし、日本の文化を学び、ルールを守るように頑張っている。

同じように日本人もまた、外国人を受け入れるために努力しているに違いない。皆さんも学校で他の教科と同じように、必死に英語を勉強してきたはずだ。それはとっても素晴らしいことだと思う。そして、習った英語を使って、外国人と素敵な友情を育んでいる。

モヤモヤした気持ちを抱えて日本で生活するのはもったいない。もっともっと日本を好きになりたい。もっともっと日本社会とも深く関わっていきたい。そう思って今日は、勇気を出して自分の本音を話す。外国人だから、見かけや言葉が違うからと言って特別扱いしないで欲しい。一人の人間として、仲間として、日本人の友達のように自然に接して欲しい。それが叶ったとき、僕たちの心の霧は晴れ、もっとリアルで素晴らしい交流が出来ると信じている。

僕は日本が好きだ。大好きだ。将来の夢は日本に住んで、日本人と結婚して、家族を作ることだ。他の外国人もきっと同じような夢を持っているだろう。そんな外国人にとって「疎外感」は大きな壁になっている。それを壊すことが出来たら、僕たち外国人は、日本のためにもっと貢献できるのではないだろうか。

日本に住んでいる外国人が日本人と共にスムーズに暮らせるだけでなく、経済や社会にも影響を与えられるはずだ。そのような社会を実現させるために、外国人を特別扱いせず、普通の友達のように接してほしい。

千里の道も一歩から、一緒に、その一歩を踏み出そう。

【優 秀 賞】



氏 名 BUDHA HEMRAJ
(ブッダ ヘムラジュ)

国・地域 ネパール 

在日期间 1年9ヶ月

学 校 神村学園専修学校

タイトル : ギャップ

みなさんは自分が周りからどう思われているか考えたことがありますか。ふだんの様子や見た目と実際の性格が同じだったら「イメージ通りだね。」と言われ、違っていたら「ギャップがあるね。」と言われます。

では、今みなさんは私を見てどう思いますか。真面目な印象？明るい印象？それとも性格が悪そうな印象でしょうか。自分で言うのも変ですが、私は学校ではまじめな性格だと思われています。そのおかげで奨学金ももらえて、充実した学生生活を送っています。きょう私が「GAP」の服を着てスピーチをするとは誰も想像しなかったことでしょう。しかし、実際は私だって学校をさぼりたいこともあるし、アルバイトに行かずに部屋で寝たいこともあります。

次に、国に対する印象はどうでしょうか。アメリカは世界でいちばん発展した国、インドは科学や数学に強い国。では、私の国「ネパール」に対するみなさんのイメージはどうでしょうか。ネパールは中国とインドの二つの大きな国に挟まれています。昔から土地をめぐる二つの国と緊張した関係にありました。人々はその怖さを忘れようと、お米や野菜などがとれた時にはそれを祝うために町中でお祭りをして、歌ったり踊ったりしてきました。だからネパール人は今でもよく歌ったり踊ったりします。どうですか？皆さんの思っていたネパールとイメージ通りですか？それともギャップがありましたか？

また、日本では食べていい食べ物と食べてはいけない食べ物がありますか？ネパールでは牛がお金の神様としてお祈りされていますから、ネパール人は牛肉を食べません。でも、日本に来たばかりの時、アルバイトの歓迎会で「どうぞ食べてください。」と

言われ「それは何ですか。」と聞いてみたら、「牛肉ですよ。遠慮しないで食べてください」と言われました。その時、「ああ、ネパール人のことは理解していないのかな。」と、がっかりして嫌な気持ちになりました。その人は親切に料理を勧めてくれたのに、私が嫌な気持ちになってしまったのは、残念だと思います。

反対に、私が日本に来る前の日本に対するイメージは「日本は先進国でみんなまじめに忙しく働いていて、留学生をたくさん受け入れているので外国人に慣れている」とい

うイメージでした。しかし、実際に来日してみると、まじめに働くだけではないようです。それに意外と外国のことはあまり知らないようで、私はしょっちゅう「ネパールはどんな国？」「何が有名？」と聞かれますし、他の留学生も同じようなことを聞かれるそうです。どうしてこのようなギャップが生まれたのでしょうか。それは、お互いに相手についての知識と理解が足りなかったからでしょう。

これから日本はもっとたくさんの外国人が住むようになると思います。その時このようなギャップのせいで残念な気持ちにならないように、お互いのことをよく知って理解することが大切だと思います。さらに、ギャップも楽しむことが出来れば、みんながもっと住みやすい日本になるのではないのでしょうか。

【優 秀 賞】



氏 名 趙 静
(チョウ セイ)

国・地域 中国 

在日期間 9ヶ月

勤 務 先 薩摩川内市(国際交流員)

タイトル : 異文化の美点と美を楽しもう

皆さん、こんにちは。趙静と申します。中国から参りました。今年度は薩摩川内市で小学生と幼稚園の二人の子供を育てながら、国際交流員として働いています。子育てをしながら働くのは大変ですね。さらに、外国人として、日本人と一緒に仕事し、日本人と生活をしていると、ときどきカルチャーショックでイライラしてしまうことがあります。皆さんも、そういう経験をしたことがあるのではないのでしょうか。そこで今日は、文化の違いについて考え、「異文化の美点と美を楽しもう」について、お話をさせていただきます。

薩摩川内市に着いた日に、銀行へ口座を開きに行きました。パスポート、在留カードや身分証明書などを提出すると、職員さんは「どうぞ、お掛けになってお待ちください。」と言いました。10分後、名前が呼ばれ、印鑑を押しにカウンターに行きました。それから席に戻って、銀行が用意してくれた飲み物を飲んで、テレビを見て待っていました。「日本の銀行いいですね。何でもあります。」と感心していました。20分ぐらいで出来るだろうと思っていましたが、30分経ってもまだ出来上がってきません。40分後、やっと名前が呼ばれました。職員さんは微笑んで、通帳の使い方などを一つ一つ詳しく教えてくれました。通帳はその場で渡されましたが、カードは一週間後、郵便で送付することでした。それを聞いて、びっくり仰天しました。どうしてそんなに遅いのですか。中国では、口座を開く時、身分証明書を持って行けば、15分ぐらいしかかかりません。カードもすぐに手に入ります。

日本の銀行のサービスもいいですが、でも、なぜ銀行の業務処理スピードはこんなに遅いのでしょうか。よく考えてみれば、やっぱり文化の違いからです。日本の銀行のお客さんの席はロビーの真ん中に設置されて、待っているうちに、お客さんは気軽に自分なりの時間を過ごせます。そして、お客さんに待つ時間を退屈させないために雑誌、新聞、テレビなどを用意しています。中国では、カウンターの直前に椅子があって、お客さんは職員の目の前に座って待ちます。職員とお客さんはお互いにプレッシャーを感じて、速くしなければならぬのです。日本の職員はお客さんに詳しく説明して、最後に丁寧に「ほかに何かわからないことはありませんか。」と聞きます。それに対して、中国

の職員はさっさと説明して、できるだけ早く終わらせます。日本が過程を大切にすることと違って、中国は効率と利便性を大事にします。サービスの重点が違って、どちらがいいのかは、人によって、答えも違います。

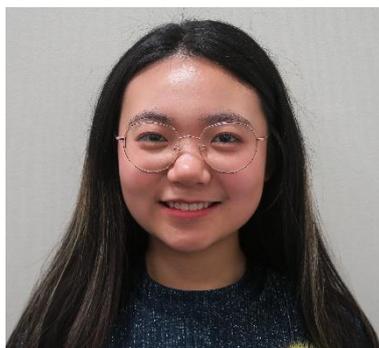
同じように、色についての美意識もそうです。結婚する時、縁起のいい色として、中国人は赤が好きで、日本人は白が好きです。中国人の立場から見ると、赤は血を象徴して、生命力に満ちた色です。日本人の立場から見ると、白は清潔さを象徴して、神聖で貴い色です。赤と白とどちらがいいのか、答えにくい質問です。赤は赤の鮮やかさがあります。白は白の潔さがあります。

違った美意識はそれぞれの自然環境の中で育ったもので、優劣はありません。違った文化があるからこそ、地球は多彩な世界になります。相手の文化や習慣を否定するわけではなく、違う文化と習慣の美を見つけるべきです。

中国にいる時は、サービスの速さと便利さを楽しんで、日本にいる時は、サービスの質とまじめさを楽しみましょう。そうすれば、私たちは異文化それぞれの美を発見して、新しい世界を開くことが出来ると思います。

ご清聴ありがとうございました。

【奨 励 賞】



氏 名 廖 俊慧
(リョウ シュンケイ)

国・地域 中国 

在日期間 5ヶ月

学 校 鹿児島大学

タイトル : 道を尋ねた時の思いやり

皆さんは異国の町で道に迷ったことがありますか。私は方向音痴ですから、グーグルマップを見ても、いつも頭の中がごちゃごちゃしてよくわかりません。だから、日本人に道を尋ねることはもう日常茶飯事になりました。

ある時のことです。私は中国語交流会に参加しようと思い、鹿児島アリーナへ一人で出かけました。下荒田から中央駅までは順調に到着し、あとはバス一本。急いで乗った次のバスは、私をアリーナ、ではなく、天文館へ連れて行きました。焦った私はアリーナ行きのバスを探しましたが、天文館はバス停がいっぱいあり、どのバスに乗ればいいのかわかりません。その上、スマホの電気もなくなりそう。その時、思い切って隣の優しいお婆さんに尋ねました。

お婆さんはにっこりして、「あら、鹿児島アリーナに行くの？私もその駅を通るから、一緒にバスに乗ったらどう？着いたら教えてあげるわ。」と言ってくれました。

「じゃ、お願いします。本当にありがとうございます！」やっと無事に到着できると思うと、うれしくてたまりませんでした。一方、そのお婆さんに迷惑をかけてしまうのでは、と心配になりました。しかし、それは杞憂でした。お婆さんは私を厄介者扱いするどころか、私に気まずさを感じさせないよう、気さくに話しかけてくれました。お婆さんと私の会話は、バスの種類、自分の家族、ついには恋愛話までに及びました。お婆さんは「恋人探しは、急がなくてもいいのよ。いい人に会えば幸せになるから。絶対幸せになってね。」と言ってくれました。お婆さんはいつの間にか私の心の扉を開けました。秋の温かな日差しのように、私の心を暖め、人生のアドバイスをくれたのです。たった30分ぐらい一緒にいただけでしたが、何年も前から知っている友達のように感じました。初めて会った私に情けをかけてくれたこと、本当に感動しました。

また、道を尋ねた時のことです。私は日本語で道を尋ねると、日本の方は、私が「ああ、外国人なんだ。」とわかります。すると、お年寄りでも誰でも、私がかかりやすいように、簡単な英語で、「レフト。レフトだよ。」「ライトです。」と教えてくれます。ただ、私があるまま日本語を話し続けると、日本の方はすぐに、英語を日本語に切り替えてくれます。私が英語より日本語を話すことに、もっと慣れていくということに気づいたの

かもしれません。もし私が中国で外国人に中国語で道を尋ねられたら、やはりまず、中国語で返事をします。日本人は相手のことを考えて、言葉を自動的に切り替えるのでしょう。小さくて気づきにくいことですが、思いやりを含んでいます。些細なことだからこそ、もっと温かさを感じます。

以前、中国にいた時、先生たちはいつも「日本人の思いやり」ということを強調し、私たちに教えていました。日本に来ていろいろ体験して、思いやりの意味が深く理解できるようになりました。行いはもちろんですが、心が不可欠なものです。上から目線の手助けではなく、相手の立場に立った手助けであり、優しい心遣いが大切なのです。

再会のチャンスがなくても、できるだけ相手の気持ちを配慮する優しさは、思いやりの本質なのではないでしょうか。思いやりがなければ、一期一会の美しさもなくなってしまふと思います。

今回、私は道に迷い、日本人のお婆さんの心遣いで「思いやり」を学びました。今後、日本の道だけでなく、人生の道に迷う時があるかもしれません。また、人生の道に迷った人に出会うかもしれません。そんな時、あのお婆さんのように温かい思いやりの心遣いを相手に届けられるように頑張ります。以上が私の鹿児島留学での貴重な経験です。ご清聴ありがとうございました。

【奨 励 賞】



氏 名 SANTOS SHIINA
(サントス シイナ)

国・地域 フィリピン 

在日期间 2年

学 校 九州日本語学校

タイトル : あの扉を開けよう！

皆さんに聞きたいことがあります。ドアとは何ですか？誰でも知っているように、人が出入りするように、開けたり閉めたりするものです。ただ私にとってドアは、新しい始まりと悲しい終わりだと思います。

なぜそんなふうに思うかというと、ドアを開けると、いろいろなものを考えたり、期待したりしませんか？例えば、学校に行く時、教室に入ったら、「今日はなにをやるんだろう？」とか「今日はなにを学ぶんだろう？」など頭の中に浮かびませんか？おかしいと思われるかもしれませんが、私はそんなふうに考えます。ドアを開けると言うのは、新しい人と会える。新しい経験をする。新しい価値観を得る。その中に何かがある。ということです。けれどその反面、悪いことが来る可能性もあります。人生、ずっといいことだけ来るわけがありません。

私もこれまでの人生でいろいろなドアを開けてきました。日本とフィリピンのハーフとして生まれた私は、保育園から高校生までフィリピンで育ちました。日本の国籍を持っていることで、中学生の時は、同級生たちに「おごって」とよく言われました。同級生たちは私がお金持ちで、家が大きいのと思っていました。本当は、家族と地味(Simple)に生活をしているのに、私が鹿児島に遊びに行くたびに、お土産をねだられました。だから、周りの人をうとうしいと思うようになりました。

しかし、次のドアが開き、高校生になると、中学生の時とは違い誠実な友達とたくさん知り合いました。このような友達を私はずっと望んでいました。悪い時にも良い時にもずっとそばにいて、今でも友達です。

ドアを開け続け、私は母の国、日本に来ました。このドアを開けるときは、不安もありました。私は日本語があまり話せなかったので、日本語学校に通うことになりました。日本語学校には、いろいろな国から来た学生がいます。最初は外国人と仲良しになることはできないだろうと思いましたが、それはまちがいでした。私には今、たくさんの友達があります。フィリピンで、私は無口な人でしたが、今の私はとてもおしゃべりです。

人生において、人々が歩む道は異なります。それぞれが選んだ道に理由があります。けれどその道だけしかないというのは、違います。それが「私の運命だ」と思っても、

もう本当にダメなら、無理しない方がいい。世の中にはそれよりきっともっといいことがあるでしょう。ひとつのことだけに苦しむのは自分自身を壊すことです。部屋みたいに、その部屋に入って、中にいて、苦しかったら、その部屋を出たくなる。そして一瞬出て、ドアを閉めて、「ああ、もう終わりだ。」と思い込みます。道はひとつだけではありません。絶対もっといいことが待っています。

私の知っているお姉さんやお兄さんたちは、「あなたはまだ若いから、人生のことはまだまだ分からないよ。」と言います。そうです。私は若いです。でも、年齢に関係なく、意見くらい言わせてください。

人生は一度しかありません。自分の前に扉があれば、思い切って開けましょう。失敗するのは当然です。困ったことがあっても、次の扉があなたを待っています。

【奨励賞】【審査員特別賞】



氏名 李 薇佳
(リ ビカ)

国・地域 中国 

在日期间 4ヶ月

学校 鹿児島大学

タイトル : 情報社会とインターネット

皆さん、こんにちは。鹿児島大学の留学生、李薇佳です。今日、私のスピーチのテーマは「情報社会とインターネット」です。どうぞよろしくお願いいたします。では発表させていただきます。

みなさんも「情報社会」という言葉を、一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。「情報社会」というのは、文字通り、情報で構築された社会です。例えば、知識、個人情報、毎日のニュースなどです。たとえどんな情報でも、私たちは昔より簡単に手に入れることができます。なぜなら、通信技術はますます発達になって、情報を得るための手段はますます多くなっているからです。中でも、インターネットは主な手段だと思います。確かに、近年、インターネットを使うことによって、私たちの生活は昔と比べて、より便利にそして、よりスマートになりました。しかし、インターネットはその便利さとは裏腹に、多くの危険が潜んでいることも理解しておかなければなりません。

では、インターネットはどんな欠点、あるいはどんな弊害があるのでしょうか。

まず、今はいつもより情報が簡単に手に入れるからこそ、私たちはだんだん思考力が失っていると思います。毎回、知らないこと、あるいは、問題にぶつかっている時、私たちは、すぐスマホを出して、「〇〇とは」、「〇〇のやり方はなんですか」と入力して、正解を見て、「へー、なるほどー、そうなんだ、わかった」と満足しています。でも、本当にわかっているのでしょうか。このような光景を見ると、私は問題が問題としての意味を失ってしまっているように感じます。確かに、昔より早く問題の答えを知りましたが、それは意味がないと思いませんか。なぜかという、自分で考え出すことではないからです。「我思う、ゆえに我あり」デカルトもこういったことがあります。つまり、思考力が非常に重要です。現代の私たちはスマホを使って、インターネットで大量の情報を手に入れます。どんなことでも簡単に知ることができますけれども、深く考えたことはほとんどありません。

今は情報社会です。多くの知識や情報を手に入れようとするのは、社会の発展の傾向を示しています。私がここでみなさんに伝えたいことは、インターネットの利用をやめましょうということではなく、調べる前に十分にその問題を考えるべきだということ

す。人間の思考力を落とさないことが、情報社会を生きていくためには必要不可欠だと私は考えています。

そして、もう一つの弊害を言いたいのは、サイバー暴力ということです。今やこれは、社会問題としても扱われています。インターネットを利用して、特定の人物の個人情報を調べて、批判を加えたり、本人を見つけて、攻撃さえします。

これについて、みんなに二つのことに注意してほしいです。まず、自分の個人情報をしっかりと保護して、気軽にネットで示さないようにすること。そして、ネットで過激な言論をせず、他人に人身攻撃をしないようにすることです。この二つのことを一人一人が心がけることで、情報社会が平穏的に発展できると思います。

概して、私は決して情報社会とインターネットは良くないことと言っているわけではありません。逆にインターネットを使うことのメリットはたくさんあります。情報社会にいる私たちは、インターネットを通して、いろんな知識を手に入れて、世界各地の友達を作ることができます。これは本当に素晴らしいことだと思います。ただ、私たちは決して思考力を失ってはいけません。そして、ちゃんと秩序を守ってインターネットを利用して、情報社会の発展を促進すべきだと、私は言いたいです。

私のスピーチは以上です。ご清聴ありがとうございました。

【奨 励 賞】



氏 名 PHAM NGOC LINH
(ファム ゴック リン)

国・地域 ベトナム 

在日期间 1年3ヶ月

学 校 九州日本語学校

タイトル : 私はお母さんが嫌い

みなさん、世界で一番好きな人は誰ですか。お父さん、お母さん、恋人。多分、お母さんが一番好きだという人が多いと思います。しかし、私は違いました。

「私はお母さんが嫌い」昔、そんなメッセージを紙に書いて、母が見えるように本棚に置いておきました。私の母はとても厳しく、いつもいつも「勉強しなさい。」と言いました。小学校に入る前に、私は字を書くことを覚えました。まだ6歳なのに、遊ぶ時間がほとんどありませんでした。学校から帰ったとたん、母から「今日は何点を取ったの?」と聞かれました。だから、私はいつでも緊張していました。母の関心は、点数だけではありませんでした。「順番は?」「なぜ満点じゃないのか。」「なぜ、ここを間違ったのか。」幼い子供にとって、本当に辛い毎日でした。数学の点数が学校で1番になるように、小学1年生が終わったら、すぐ九九の表を全部覚えさせられました。学校は夏休みなのに、私にとって家が2番目の学校でした。普通、娘はお母さんとよく話すと思われています。でも、私と母はそんな関係じゃありません。話し出すや否や、ケンカになります。私は13歳になるまで「母は私のことが嫌いなのだ。」と思い込んでいました。

あの日、母は「お母さんが嫌い」という私からのメッセージを見て、泣きました。私は、そんな母を見られたら嬉しいと思っていたのに、母の涙を見ると心が痛くなりました。でも、私は頑固なので、「ごめんなさい」とは言いませんでした。その日の夜、寝る前に色々なことを考えました。

私の子供の頃、家計は苦しく、家族の生活は大変でした。でも、字が読めるようになった私に、毎日母は新聞を買ってくれました。それに、早く九九の表を覚えたおかげで勉強が簡単になりました。数学の点数が学校で1番になり、学校からプレゼントや奨学金も貰いました。田舎に住んでいる子供は、小さい時から家事や農業の仕事などしないといけない人が多いです。でも、母は私に何もさせませんでした。勉強が終わったら、テレビを見ても大丈夫と言われました。家計が苦しかったにもかかわらず、私は新しい服を本当によく買って貰いました。でも、母の服は丈夫なのか、全然買い替えることはありませんでした。お正月の時でも、母は自分のために新しい服を買いませんでした。家計がよくなったとき、母が自分の服を買ったのを見て、私はびっくりしました。本当

は母も綺麗な服が好きなのだと知りました。

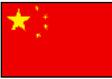
その後、私は大学生になり、家を離れました。母は私に会いたがり、家にいなくても新しい服を買ってくれました。顔を合わせれば相変わらずケンカになるけど、私は母を嫌いだと思わないようになりました。私が日本に行く時、母は2日泣いたそうです。母は私を嫌いではなく、大好きなのです。

今、私は日本にいますが、母はいつも私のことを考えています。「リンちゃん、きれいな服を見つけたよ。買ってあげようか。」と電話をかけてきます。大人になった今、私も色々なことが分かるようになりました。母が厳しいのは、私を心配していればこそ。だから、母はもう忘れたかもしれませんが、母にあのメッセージのことを謝りたいです。そして是非伝えたいと思います。「お母さん、私はお母さんが大好きです。」

【奨励賞】



氏名 員 暁洒
(イン ギョウサイ)

国・地域 中国 

在日期间 4ヶ月

学校 鹿児島大学

タイトル : 勇気という鍵

皆さん、こんにちは。員暁洒と申します。今回のテーマは勇気という鍵です。よろしくをお願いします。

勇気は人生の中の最も鮮やかな色彩です。勇気をたたえる言葉もたくさんあります。さて、勇気と言えば、皆さんは何を思い出しますか。私の頭にまず浮んだのは、かつて自分が勇気を出した自慢できること、そして、勇気が足りなくて悔しくてたまらなかったことです。

昨年9月末に、私は勇気をもって日本に来ました。今回のスピーチコンテストについての情報を得て、私は参加するかどうか迷いました。実は私は内気なので、スピーチコンテストどころか、授業で手を挙げることもさえも緊張して胸がどきどきします。しかし、一度も参加したことがないからこそ、従来の自分を超越するために参加したいと思いました。でも、人前で恥をかくのは嫌です。さんざん葛藤した結果、私は今、勇気を出してここに立っています。皆さんと私の話を共有することにしました。

私は高校の三年間、憧れの大学に入るために、努力を重ねていました。それなのに、大学試験期間中、高熱が何日も続いて、頭がぼうっとして集中できず、その大学には落ちてしまいました。皆さん、わかってもらえるでしょうか？当時若かった私が、どんなに苦しくて辛かったか。周りの人は「女の子はストレスに弱いから、来年もだめでしょう。」とか、「今の大学もそんなに悪くないじゃない。」といろいろと言いました。そして、結局、私は理想の大学に入るためにもう一度戦う勇気がありませんでした。現実には妥協して、ある大学に入学し、平凡で何の変哲もない毎日を繰り返していました。

ある日、偶然、大学で行なわれた修士発表会に参加しました。この会では、大学院試験に合格した先輩達が、自分がどうやってそれぞれの院に受かったかという経験を後輩に話してくれました。その中のある先輩が入学した大学は、私が失敗して入れなかった大学でした。みなさん、想像してみてください。その会場に座った私は表彰台に立ち、ぴかぴか眩しいその先輩をぼうっと見ることしかできませんでした。羨ましくてしかたありませんでした。しかし、その瞬間、その憧れの大学に関する全ての記憶が一瞬にして蘇ってきました。なんだ。私はこの学校を忘れたのではなく、心の底に深くしまって

いたのか。勇気、それは時にはほんの一瞬ちらっと心に浮かぶだけのものですが、時には一生ずっと心に留まる執念です。

それからというもの、私は朝早くから、夜遅くまで寝る間も惜しんで勉強に励みました。わずかな時間でもおろそかにせず、一日も休まず、あのキラキラ輝いている大学に入るため、一生懸命準備しました。そしてついに、私はその大学の院に合格することができ、今もその大学院で勉強をしています。勇気があったからこそ、大学入試に落ちるという経験をしてもお、理想の大学を追い続けることができました。そしてその結果、もう一度夢を追う権利と機会をもらったのです。

ここで皆さんに、アメリカの精神科医であり、作家であったM・スコット・ペックさんの言葉を紹介したいと思います。「勇気とは恐怖を感じないことではない、恐怖を感じながら行動できることである」。私も大学院への進学や留学、また今回のスピーチコンテストをきっかけとして、もっと自分を変えて、今の自分を越えられるようになりたい、積極的にチャレンジする人になりたいです。私は勇気こそ真正面から困難と挑戦に立ち向かうためのゴールデンキーだと思います。勇気を持っているから、私には畏れることがありません。そしてあなたも、勇気を持てば、きっと人生の波を上手に乗りこなせるでしょう。

ご清聴ありがとうございました。

【奨 励 賞】



氏 名 RIA VENTURA ARLOS
(リア ベンテウラ アロス)

国・地域 フィリピン 

在日期间 1年9ヶ月

学 校 九州日本語学校

タイトル : 思いがけない祝福

人生にはときどき、思いがけないことが起きます。思いがけないことがあるからこそ、人生は面白くなると思います。私にも予想外に起こったことがたくさんあります。でも、その中で一番予想外なのは今の私です。

私の家族はあまり裕福ではありません。子供の頃は、何か机の上にある時だけ食べ物を食べました。好きな物とか新しい服とか、全くありませんでした。私と2人の姉は常に近所の人や親類縁者から要らない物をもらっていました。私が生まれる前、家族は漁業をしていました。私の故郷は海の近くで、一番多い仕事は水産業です。でも、父は漁業は不十分だと思い、家族の生活が良くなるように、漁業をやめて他の仕事を探しました。ゴミのリサイクルは漁業より利益が大きいという話を聞き、父もこれを始めました。最初は父と母だけでしていましたが、だんだん私と2人の姉も手伝うようになりました。学校が休みの時、私達はゴミ捨て場に行って何か良いものがあれば、それを取って売りました。そんな仕事をしているせいで、私の肌はとても黒かったです。そのため、子供の時は周りの子供達によくいじめられました。だから、私は他の人を信じられず、いつも離れたい気持ちがありました。友達がいなくて、いつも一人で遊んでいました。でも、高校生が終わるとき、私は自分に言いました。「ずっと、こんな生活はダメだ。いつも弱いから、他の人にいじめられた。もっと自分に自信を持てるように大学では素晴らしいコースを選ばなきゃ。」それで、大学では警察官になるために、犯罪学を選んで勉強しました。

大学生の時には色々な新しく面白いことを勉強しました。だんだん自信を持てるようになり、親友もできました。親友のおかげでいじめられることも減りました。しかし、大学を卒業しても、すぐには警察官になれませんでした。お金を稼いで、両親を手伝いたかったのに、パートの仕事も見つけれませんでした。家で何もしないよりはましだと思い、仕事を探しながら、無料で学べるコースで勉強しました。フィリピンでは、どんな仕事でも色々な資格があったら、いい仕事ができ昇進も簡単です。医療記録転写士の勉強をしながら、日本語を勉強しました。犯罪学免許の試験も受けたかったので、大変でしたが、この3つを一緒に勉強しました。

私の田舎では色々な奨学金プログラムがあります。一昨年の11月2日、学校の面接に合格し、日本に留学できることになりました。こんな素晴らしいことが私の人生に起きるなんて、とても信じがたく、涙が止まりませんでした。

私は今、日本にいます。日本に来てから、楽しいことばかりではなく、辛いことや悲しいこともありましたが、私は、今の生活が好きです。子供の頃に全く買えなかった物を買えます。食べたいと思う物を食べられます。行きたい場所があったら、休みの日に行くことができます。フィリピンだけでなく、他の国から来た友達もできました。そして、何より嬉しいのは、アルバイトで貯めたお金で、両親にプレゼントを送れることです。子供の頃の夢がだんだん叶っていき、本当に幸せです。ですから、今こそ良い未来のために、どんなことがあっても前に進みたいです。

主催

公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

後援

鹿児島県日中友好協会

鹿児島県マレーシア友好協会

鹿児島市日中友好協会

鹿児島スペイン協会

鹿児島日英協会

鹿児島日豪協会

鹿児島日独協会

鹿児島日仏協会

鹿児島日華親善協会

鹿児島日韓親善協会

(一社)鹿児島県日越友好協会

鹿児島国際化推進協議会

鹿児島県

鹿児島県教育委員会

鹿児島市

鹿児島市教育委員会

鹿児島商工会議所

(公社)鹿児島青年会議所

国立大学法人鹿児島大学

国立大学法人鹿屋体育大学

鹿児島国際大学

志學館大学

第一工業大学

鹿児島純心女子大学

鹿児島県立短期大学

鹿児島工業高等専門学校

学校法人赤塚学園

学校法人九州総合学院鹿児島情報ビジネス公務員専門学校

学校法人神村学園高等部 神村学園専修学校

学校法人原田学園鹿児島キャリアデザイン専門学校

九州日本語学校

(株)南日本新聞社

NHK鹿児島放送局

(株)南日本放送

K T S鹿児島テレビ

(株)鹿児島放送

K Y T鹿児島読売テレビ

協賛各社・各団体

<p>資源は有限 観光は無限</p>  <p>いわさきグループ</p>	
<p>Rotary  国際ロータリー第2730地区 鹿児島ロータリークラブ</p>	 <p>特定非営利活動法人 NPO法人 <small>くるす</small> KLS</p>
 <p>JA鹿児島県経済連</p>	 <p>KOREAN AIR 50 years</p>
 <p>NANOAY 南生建設株式会社</p>	 <p>ひと・ゆめ・暮らし 日本ガス</p>
 <p>株式会社 ヒガシマル</p>	 <p>イベント企画・花のプランナー 株式会社 <small>MAKARAZUYA</small> まからずや</p>
 <p>山形屋</p>	 <p>YT 弓場貿易(株)</p>
<p>ワールドサンフーズ(株)</p>	

ご協賛ありがとうございました。